

環境憲章 日野環境チャレンジ2050 CHALLENGE! 1 CHALLENGE! 2 > CHALLENGE! 3 CHALLENGE! 4
CHALLENGE! 5 CHALLENGE! 6 主要パフォーマンスデータ 環境マネジメント マテリアルバランス

CHALLENGE! 3 工場CO₂ゼロチャレンジ

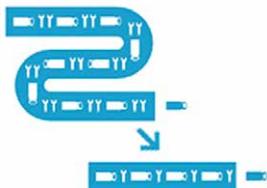
TARGET 車をつくる工場で
CO₂排出量ゼロ



製品を生産する際にも各事業所からCO₂が排出されるため、地球温暖化を抑えるには、この「工場CO₂」削減の取り組みも不可欠です。

日野グループでは、生産現場の「日常改善」や「革新技術の導入」を進めるほか、再生可能エネルギーの積極利用も並行して進め、「工場CO₂ゼロ」にチャレンジします。

日常改善の 加速



生産現場で日ごろ取り組んでいる日常改善を加速させ、各工程に潜むムリ・ムダ・ムラを徹底的に撲滅し、そこにかかる加工時間、工程数、加工ライン長などを削減することで、工程の「シンプル化」「スリム化」を進めます。



革新技術の 導入



生産現場においてIoT技術などの革新技術を積極導入し、生産の「自動化」を図るとともに、「効率化」を追及することで、各工程におけるCO₂排出量削減を進めます。



再生可能エネルギーの 活用



日野グループでは、これまで生産事業所を中心に太陽光発電に代表される再生可能エネルギーを導入してきました。今後その導入速度を加速させ、各工程で使用されるエネルギーを再生可能エネルギーで賄うことで、環境にやさしいエネルギー利用徹底を目指します。



環境憲章 日野環境チャレンジ2050 CHALLENGE! 1 CHALLENGE! 2 > CHALLENGE! 3 CHALLENGE! 4
CHALLENGE! 5 CHALLENGE! 6 主要パフォーマンスデータ 環境マネジメント マテリアルバランス

日常改善の取り組み

日常改善

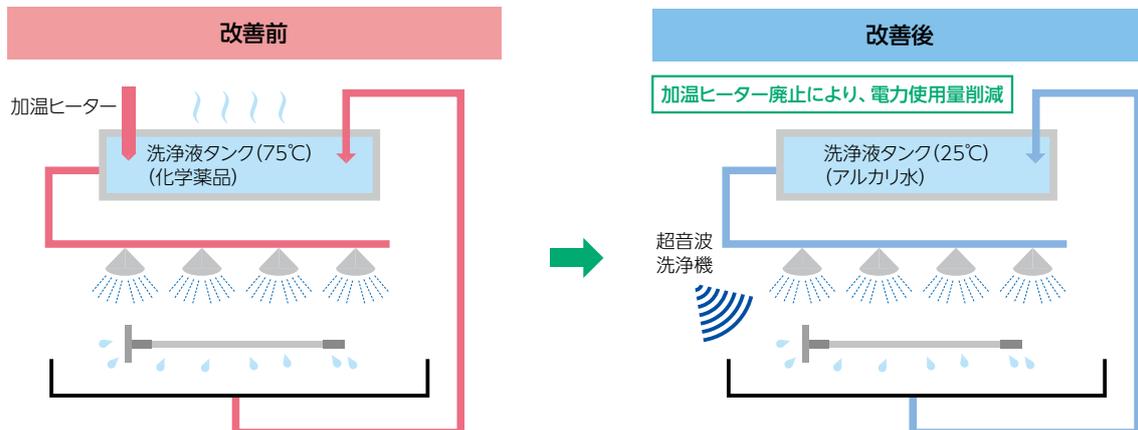
地球温暖化の防止は、人類が直面する課題のひとつであると認識し、すべての生産現場において生産性向上、およびエネルギーのムダを徹底的に省く日常改善に全員参加で取り組み、CO₂排出量の低減に向けた活動を推進しています。2019年度も引き続き、2017年度に策定した長期環境ビジョン『日野環境チャレンジ2050』に基づき、生産活動から排出するCO₂をゼロにする「工場CO₂ゼロチャレンジ」に取り組むなど、日々の省エネ活動を幅広く実施しました。

主な取り組み事例

- 工場照明のLED化
- 構内運搬車両の電動化
- 生産設備の高効率モーターへの置換
- パルスエアブローガン導入

事例 | 超音波洗浄機導入による洗浄水の常温化

機械加工工程では、製品に付着した油分などを洗浄するため、部品洗浄機を使用しています。今までは、薬品が含まれた洗浄剤を加温して洗浄していましたが、常温でも同様の洗浄効果が得られる超音波部品洗浄機(アルカリ水)を導入しました。これにより、加温させるために使っていたヒーターのCO₂排出量を1台当たり5.7t-CO₂/年削減を実現したと同時に、薬品洗浄剤の使用も廃止することができました。

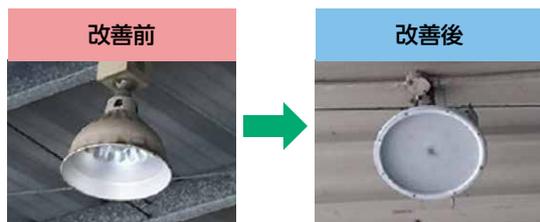


環境憲章 日野環境チャレンジ2050 CHALLENGE! 1 CHALLENGE! 2 > CHALLENGE! 3 CHALLENGE! 4
CHALLENGE! 5 CHALLENGE! 6 主要パフォーマンスデータ 環境マネジメント マテリアルバランス

事例 | 工場内照明のLED化

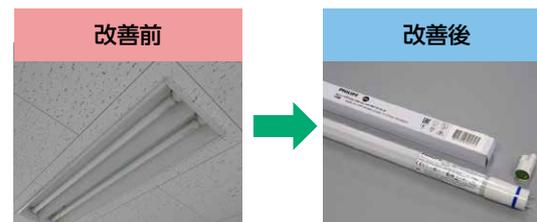
各国でも積極的にLED化を推進中。

● 日野モータース・ベトナム



削減量
1.5
t-CO₂/年

● 日野モータース・マニュファクチャリング・タイランド



削減量
5.7
t-CO₂/年

事例 | 「省エネ賞」の受賞

日野モータース・マニュファクチャリング・タイランドが、タイ王国エネルギー省主催の、Thailand Energy Award 2018において、「Energy Conversation」「Energy Personel-Exective Designated Factory」の2部門で表彰されました。日ごろの省エネ活動が高く評価されました。



環境憲章 日野環境チャレンジ2050 CHALLENGE! 1 CHALLENGE! 2 > CHALLENGE! 3 CHALLENGE! 4
CHALLENGE! 5 CHALLENGE! 6 主要パフォーマンスデータ 環境マネジメント マテリアルバランス

再生可能エネルギーへの取り組み

再生可能エネルギー

日野自動車では再生可能エネルギーに関する取り組みとして、太陽光発電設備を設置しています。発電した電力は事務所内の照明や敷地内の外灯などに使用しています。

今後も既存設備の省エネルギーだけでなく、幅広い視野から地球温暖化対策に取り組んでいきます。

古河工場の太陽光パネル
出力2.1kW



事例 | 新田工場 新食堂屋上への太陽光発電パネル設置

新田工場新食堂の屋上に、出力約160kWの太陽光発電パネルを新たに設置しました。発電した電力は、生産活動や事務所の照明、敷地内の街灯に使用しています。今後も既存設備の省エネルギー改善のみでなく、再生可能エネルギーも取り入れながらCO₂削減を進めていきます。



新食堂の屋上

事例 | 水力発電による電力の購入

日野自動車の連結子会社である明友機工(株)は、山梨県と東京電力エナジーパートナー(株)が共同運営する電力供給ブランド「やまなしパワーPlus(プラス)」が提供する「ふるさと水力プラン」の契約を締結しました。

同プランは、CO₂を排出しない山梨県営水力発電所で発電された電力を提供するもので、明友機工の本社および石和事業所2カ所でこの電力を利用します。これらを2018年度実績より工場排出CO₂に換算すると年間約260トンの削減となり、工場排出CO₂全体の約89%の削減に相当します。

電気料金の一部は、山梨県の環境保全事業などの施策に充てられ地域貢献につながることから、山梨県知事から環境優良企業として表彰を受けました。

今後はフォークリフトの電動化、そのほかの燃料使用などの削減を目指し、さらなるCO₂削減を進めて『日野環境チャレンジ2050』で公表中の「工場CO₂ゼロチャレンジ」に向けて活動を推進していきます。



受賞の様子